

1 学校教育目標
(1) 「令和3年度(2021年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を踏まえ、本校の三校訓「至誠・剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育をめざす。 (2) これまで積み上げてきた本校の教育方針に基づき、教職員が一体となって、家庭や地域との連携を深めるとともに、活力ある学校づくりをめざす。

2 本年度の重点目標
本年度教育スローガン 「夢実現・未来への挑戦」 ～ マナーを身につける ～
(1) 生徒会を中心に学校行事の充実と生徒の主体的な学校生活への指導・助言 (2) 生徒の職業観の涵養と就業率向上のための個に応じた情報の提供と学力定着の指導 (3) 保護者に対して、進路・保健だよりやHP等を通しての本校教育への理解と協力体制の構築

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の組織力の向上	学校組織の円滑な運営と活性化	共通の課題解決に向け、職員間の情報の共有を図り、連携を密にする。	職員会議や各委員会、職員連絡会等での情報を周知徹底する。	A	毎日の職員連絡会で詳しく情報の共有を行い、連携した取組ができた。職員間での情報伝達を更に密にしていく。
		職員研修の充実	人権教育、生徒理解(生徒指導・特別支援)、不祥事防止等で実施する。	総務部で年間計画を調整し各係が企画のうえ、全職員で実施する。	A	コロナ禍ではあったが、年間計画に従って、意義のある研修ができた。次年度も生徒理解に力を入れ課題を見据えた研修を検討していく。
	安全な学校づくり	施設の安全確保	年間2回、安全点検表による点検を実施し、確認後すぐに危険箇所を改善する。	前期、後期に各1回、総務部が企画し、全職員で実施する。	A	年2回の安全点検を全職員で実施し、危険箇所を把握・改善することができた。
		緊急時の安全確保と緊急事態対応の徹底	危機管理マニュアルの周知徹底と安全意識の向上に取り組む。	救急救命講習や防災・消防訓練等を総務部が企画し、全職員・生徒で実施する。	A	職員で救急救命講習と防災講習は年2回実施し、職員・生徒共にまじめに取り組んだ。来年度は消防署からの派遣をお願いしたい。
	業務改善・働き方改革	生徒と向き合う時間の確保のための工夫	校務の精選等により、職員の時間外勤務時間を縮減する。また、職員の担当する校務の平準化を図り、職員の負担感を軽減する。	衛生委員会において、職員の時間外勤務の情報共有を行い、運営委員会等で校務改善等を検討する。校務分掌の見直しや校務の負担の多い職員への支援を全職員で行う。	A	衛生委員会において、「玉名高校・玉名高校附属中学校、働き方改革宣言」を策定し、職員の意識改革及び協力体制の整備に取り組んだ。校務については校務分掌の見直しの検討を行い、業務の平準化を図った。しかし校務の平準化は完全には達成できておらず、次年度以降の課題である。
	授業の充	学習内容の	年間指導計画の	年間指導計画をP		年度当初より導入さ

学力向上	実	充実	完成度を高め新教育課程に繋げる。ICT機器を活用した授業を推進するための環境整備を行う。	DCAサイクルで見直すとともに、教科ごとに活用事例を提出し、全職員で共有する。	A	れたICT機器の活用に積極的に取り組み着実な成果をあげた。教科ごとに年間指導計画に即した「指導と評価の計画」を作成し、次年度に備えている。
		公開授業・研究授業の実施	「わかる授業」と「主体的・対話的で深い学び」の実現のためにICT機器の活用を含めた授業改善に努める。	公開授業や研究授業を積極的に行い、互いの指導助言や意見交換を通じ、授業改善に取り組む。	A	11月の公開授業週間その他、ICT活用授業やオンライン公開授業等にも取り組んだ。授業改善を目指した合評会や意見交換会等で職員間の情報への共有意識が高まった。
		授業評価の実施	「わかる授業」の推進やICT機器の活用を評価・検証し、学習内容の充実を図る。	生徒アンケートや職員間の意見交換をふまえて、授業や年間計画の検証・分析を深める。	A	9月と1～2月に前期・後期の授業評価アンケートを生徒に実施した。アンケート結果は教科ごとにグラフで確認でき、評価結果をふまえて、さらなる授業の改善に努め、次年度に繋げていく。
	個に応じた学習指導	きめ細かな指導の充実	ITC機器の活用を通して、授業における生徒の到達度を把握し、個別最適化された学びの実現に向けた指導方法の工夫・改善に取り組む。	教科担当者が学期ごとに指導状況を見直し、生徒各自の目標達成に向けて、工夫する。	A	ICT機器の活用及び生徒の特性を理解する会議を年に複数回実施することで、生徒の特性に応じた教授方法について工夫・改善に努めた。
キャリア教育(進路指導)	進路意識の高揚	進路目標設定の取組	玉名公共職業安定所と連携し、情報の入手および提供により4年次生の100%進路先決定を目指す。	進路指導部が企画し、担任を中心に全職員で取り組む。キャリアパスポートの活用として特別活動における感想文をまとめる。	B	玉名公共職業安定所と連携するとともに、求人票などの進路情報を4年次担任と協力し生徒・保護者へ提供できた。進路未定者の進路先確保に向けたサポートを継続したい。
			個別面談等を通して、就業を促し、生徒の就業率60%以上を目指す。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	A	毎月末の就業調査を行い、また集会時において就業の大切さを講話で述べてきた。今年度は6割以上を継続できている。
			個別学習会「玉定チャレンジ」を通して基礎学力の向上及び進学指導を行う。また、各種資格の取得を促し、卒業時に履歴書に書ける資格が1つあるように指導する。	進路指導部及び教科担当者が企画し、対象生徒の指導に取り組む。	A	年間4期に分けて受講を募集し、基礎学力(英・数)向上および資格取得と公務員受験に向けた課外を実施できている。検定を受検し、生徒の学力保証に対応することができている。
		キャリア教育の推進	就職希望者で就業未経験の生徒	進路指導部が企画し、全職員で		コロナ禍ではあったが、春に募集をした

			には、集会時やインターンシップの案内を通じて就業への意識付けを行う。また、進学希望者には、オープンキャンパスへの参加を促す。	取り組む。	A	インターンシップ事業は、秋に実施できた。事前指導の成果もあり、事業所から高評価を得て就業（アルバイト）に繋がった。進学希望者にも、オープンキャンパス参加を促し、体験型授業を受けるなどして、大学受験合格に繋がった。
			就職ガイダンス（職業講話）や進路ガイダンス（卒業生講話）を実施し、8割以上の生徒の参加を促す。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	A	7月に、県北で経営者として、また山鹿灯籠師として活躍されている方に講師をお願いし実施できている。また、10月末には、令和元年度卒業生3名に講話をしてもらい実施できている。当日の参加も両方8割以上の生徒が出席し、感想文に役に立ったと記入した。
			進路ニュースを年間5回発行し、新しい進路情報を主に役立つ内容を精選し掲載する。	進路指導部が企画し、全職員で取り組む。	A	12月までに4回発行し、就職についての基礎知識や進路指導部主催の行事について写真を掲載し、成績送付時に同封してもらい発送できている。5回目は学年末考査後の予定である。
生徒指導	心豊かな人格の育成	基本的な生活習慣の育成	挨拶、時間の厳守、問題行動の防止を進める。 喫煙等の問題行動、盗難事案の発生件数「0」を目標に取り組む。	全職員の共通理解と共通実践で取り組む。	C	今年度は問題行動が発生し、特別な指導を行った。全職員で協力し、生徒と向き合い、成長を促した。生活習慣には課題が多い。継続して指導していく。
		交通安全意識の向上	登校指導を実施する。交通安全教室を実施し、交通事故事案の発生件数「0」を目標に取り組む。	生徒指導部が企画し、全職員で実施する。	A	毎日複数の教職員で登校指導・下校指導を実施した。大きな事故等は今年度起きていない。生徒会の生徒が挨拶に立つこともあり、大切な交流の場にもなっている。
		自主自律の精神の育成	学校行事に関して、生徒が主体的に取り組めるように、生徒会執行部を中心として、各種行事の企画・運営を充実させる。	生徒指導部と生徒会が企画し全職員・全生徒で取り組む。新入生歓迎行事レクレーション等の行事の企画を生徒が主体性を持って取り組めるように助言する。	A	様々な行事において、生徒会の生徒が中心となり、工夫し、協力しながら充実した活動を行うことができた。

人権教育の推進	「命を大切にすることを育む」指導の充実	職員研修の推進	年間計画を作成し、全職員で研修に参加することで、人権意識の向上と適切な対応能力を身に付ける。	人権・特別支援教育委員会が立案し、全職員で取り組む。	A	今年度予定される外部研修について周知をし、参加を募った。新型コロナウイルス感染症拡大のため中止やオンラインとなることがあったが、研修の機会を得ることができた。
		ホームルーム活動、教科指導における取組の推進	ホームルーム活動、各教科における人権教育の取組を策定する。	人権・特別支援教育委員会を中心に全教科領域で取り組む。	B	各クラスごとに担任を中心に計画案を作成して実施した。クラス独自のHRがきわめて少ない中で、有意義な時間となった。
		家庭への啓発の推進	人権教育委員会等の案内や定時制保護者会等における講話で啓発に努める。	人権・特別支援教育委員会を中心に企画・立案し学校全体で取り組む。	B	DVや児童虐待防止のチラシ等を保護者に配布した。定時制保護者会に講師を招き、スマホ依存の問題についての講話をしていただいた。
		指導内容の工夫と推進	「命を大切に心」を育む指導プログラムに基づいて指導を実施する。	人権・特別支援教育委員会を中心に企画・立案し、学校全体で取り組む。	B	人権教育HRで学年ごとの教材を通して、クラスや自分自身を捉え直すきっかけとすることができた。
いじめの防止等	いじめ問題への対策	いじめが起きないための日常的取組の推進	生徒が互いに思いやり、認め合える人間関係を醸成し、いじめを見逃さない体制作りを推進する。いじめ事案の発生件数を「0」を目標に取り組む。	人権・特別支援教育委員会を中心に企画し、学校全体で取り組む。ホームルーム活動でいじめ問題について取り上げる。いじめ発見のためのアンケート等を実施する。	B	日頃の生徒指導を通じていじめの防止に努めた。アンケートによっていじめ事案の発生を確認した。関係職員を中心に速やかに実態把握に務めた。今後もいじめが継続しないよう全職員で指導を続けていく。
		職員の資質能力の向上	いじめ、カウンセリング、生徒理解やネットいじめ等に関する校内研修を推進する。	人権・特別支援教育委員会を中心に、学校全体で取り組む。	B	各分掌と連携して生徒理解研修を2回、特別支援教育職員研修を2回、スマホ依存について研修を1回実施することができた。
		家庭への啓発の推進	人権教育講演会等の案内や定時制保護者会等における講話で啓発を進める。いじめ発見シートの説明を行う。	人権・特別支援教育委員会を中心に企画し、学校全体で取り組む。	B	定時制保護者会に講師を招き、スマホ依存の問題についての講話をしていただいた。いじめ発見シートは年度内に配付予定である。
特別支援教育	特別な支援を必要とする生徒への適切な対応	個々の生徒の正確な実態把握と支援	支援の必要な生徒に対して支援計画、指導計画を作成し活用する。各種研修への参加や校内研修を推進する。	教頭、特別支援教育コーディネーターが中心となり、連絡会等を利用して、生徒の困り感を持つ生徒を全職員で支援する	B	支援が必要な生徒の情報を連絡会などを通してこまめに状況の共有を行い、特別支援教育計画立案と支援ができている

保健環境指導	健全な心身の育成	心の悩みを持つ生徒の把握	担任や各部と連携し、面談の機会を増す。	保健環境部が企画し、全職員で実施する。	A	面談週間や必要時に面談が行われている。
		健康診断後の治療率向上	健診結果を基にした自己の健康の保持増進や治療の促進を行う。	保健環境部が企画し、全職員で取り組む。	A	こまめに生徒に連絡し受診や健康維持につながっている。
		啓発活動の推進	感染症予防や環境問題を含む保健だよりを年5回発行する。	心のケアの方法や生活習慣調査結果などを盛り込み定期的に発行する。	B	保健だよりは2回しか発行できていないが、生徒集会でICTを用いて指導した。
		外部講師による講演会の実施	薬物乱用防止教室（年1回）や性教育講演会（年1回）を開催する。	保健環境部が企画し、全職員で実施する。	A	外部講師、内部講師などで実施できた。
	環境美化と環境教育の推進	環境美化の推進	職員清掃日（毎週月曜）、定期清掃日（毎週木曜）を定める。	保健環境部が企画し、全職員・生徒で実施する。	A	職員清掃や、生徒清掃も曜日を決めて実施できた。
		学校版環境ISOへの取組	学校版環境ISOを周知し、実践できるように工夫する。	保健環境部が企画し、全職員・生徒で取り組む。 生徒保健委員会で牛乳パック等を回収しリサイクルに出す	A	牛修パックリサイクルやゴミの分別もできている。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	情報発信	情報の発信	学校HPの充実	学校HPの行事ごとの更新と内容の充実に取り組む。	A	各種行事については、当日に投稿できている。
	連携の強化に向けた取組	保護者との連携	保護者会（7月）の内容を工夫・改善し、出欠の返答ならびに参加率を前年度より向上させるよう啓発する。	総務部が企画し、全職員で取り組む。	C	4名（11.4%）の参加となった。（昨年度9名、25.7%）本会の意義や開催時期、事前の呼びかけについて改善していきたい。
		地域との連携	保護者とともに思春期の生徒への対応や情報モラル教育等についての研修を実施する。総合型コミュニティ・スクールの活動をとおして、地域との連携を深める。	総務部、生徒指導部、情報管理部が連携して計画し、7月開催の定時制保護者会で実施する。	B	スマホ依存防止アドバイザーの荒川紀代子氏による「家庭でできるデジタル障害予防法」についての講演は生徒の現状にタイムリーな内容であった。

4 学校関係者評価

- ・地域連携（連携の強化に向けた取組）で保護者会の参加が低いようです。定時制に通う生徒というのは、家庭の中での課題を抱えた生徒が多いのは想像できます。本人の自立を促すことも重要ですし、保護者の養育力も重要になるかと思しますので、実施にあたり、更なる工夫が必要かと思えます。
- ・生徒のニーズも多様化する中で、多くの項目でA評価をつけておられることはすばらしいと思います。
- ・地域連携（保護者との連携）の項目において、C評価である。このコロナ禍による影響も大きいと考えられるが、学校と保護者との連携、共通理解は、必要不可欠である為、引き続き参加

率の向上に向けて検討頂きたい。

・ 定時制は生徒数も少ないので、一人一人の生徒に教師の細やかな関わりができていて、評価も高くなっている。大変嬉しく思います。是非、生徒の就学の機会を確保して、自立につなげてください。

・ 定例のものに限らず、必要に応じて、学校見学等を受け入れていただき、ありがたかったです。

・ 概ね評価が高いが、問題行動が発生した事は残念です。

・ 全体的に A 評価が大部分であり高く評価したい

・ 一部に問題があったとしても、概ね生徒・保護者・職員の間で意欲的な取り組みをされていることが伝わります。

5 総合評価

本年度の教育スローガンは「夢実現・未来への挑戦 ～マナーを身につける～」とした。

【学校経営】

職員対象のアンケートでは、学校の組織力の向上、授業の充実、人権教育研修の充実と推進、人権教育指導方法等の工夫と改善、情報発信の項目において、肯定的評価が上昇した。

今年度も昨年と同様、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、例年と異なる形での行事や取組が多くなる中、様々な場面で I C T 機器の活用が進んだ。

【学力向上】

個々の学力差が大きいため、一人一人の学力に合わせた個別の学習指導を各担当が工夫しながら指導した。希望する生徒に対しては、玉定チャレンジ（始業前の個別指導）で進学対策、資格取得を継続的に実施した。

【キャリア教育の推進（進路指導）】

学校評価アンケートの進路指導に関する項目は、保護者・生徒において評価が下降した。

進路意識の高揚が図れなかった。進路指導部を中心とした計画的な取組が必要であり、併せて生徒の進路希望に応じた適切な指導が必要である。

【生徒指導】

遠距離からの通学手段としてバイク・自動者通学を許可しているが、交通違反・交通事故等はなかった。問題行動事案は、2件であった。指導を通して様々な先生方に話をしてもらい、まだ不安定なところはあるものの全体的には落ち着いてきている。若駒祭（文化祭）は新型コロナウイルス感染防止に留意しながら生徒会を中心に開催することができた。

【人権教育の推進】 【いじめの防止等】

新型コロナウイルス感染症に起因する偏見や差別が生じないよう十分配慮しながら、適切に指導することができた。いじめ問題の発生件数は1件であった。未然に防ぐことができなかった。職員間で連携し、状況把握に努め、いじめの未然防止・早期発見に努めたい。

【保護者・地域住民との連携】

育友会及び同窓会と連携していただき、I C T 環境の整備や生徒激励のための行事等への支援を実施していただいた。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大が収まらない中、感染防止を徹底して、山鹿灯籠師を招聘し、職業講話等を実施することができた。また、準備を進めながらも、中止となる行事が多かったため、評価できない項目が数項目あったが、本校の教育目標の達成に向け、各担当部署を中心に、学校評議員の御意見や学校評価アンケートの結果などを参考にしながら積極的に取り組むことができた。次年度以降も、今年度までの取組を継承しつつ、その効果について検証し、改善を図っていくことが必要である。

6 次年度への課題・改善方策

第1の課題は、「授業改善」である。一人一台端末整備に係る先行実践校となり、全職員で取組んだ結果、「学校情報化優良校」の認定を受けた。今後は、I C T 機器を活用した授業の工夫に積極的に取り組むことが重要であり、来年度も I C T 担当を任命し、I C T を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けて授業改善を推し進めたい。

第2の課題は、「特別な支援の必要な生徒への対応」である。ユニバーサルデザインの視点に立った授業での配慮を全職員で実践していく必要がある。改善方策として、個別の支援計画・指導計画を作成し、生徒理解研修等を通して、個々の生徒に対する職員の共通理解を深め、適切な支援を行っていく。また、職員研修（特別支援学校からの講師招聘等）を実施して職員の特別支援教育への理解を深める。

第3の課題は「進路目標の実現」である。1年次生から進路目標を明確に持たせ、その実現に向けて、インターンシップ等の就労体験や玉定チャレンジ等への積極的な参加を促し、継続的な進路指導を組織的に実践し、生徒の進路目標の実現に繋げていきたい。

第4の課題は「保護者との連携、中学校との連携」である。行事等に関する生徒及び保護者への連絡は、書面だけでなく担任からの電話連絡も行っている。また出欠状況についても、担任が保護者と電話連絡を取っており、生徒の学校での様子を保護者に伝えている。しかし、生徒と保護者との関係が良好でない場合は、生徒の出席状況等の改善に繋がらないことも多い。改善方策として、家庭訪問や三者面談等を積極的に計画したい。併せて、学校関係者評価で指摘のあった「保護者会の出欠が低い」ことの対応策を早急に検討したい。また、中学校との連携を更に充実させ、積極的に中学校への情報発信し、更に本校定時制教育への理解を深めていきたい。